

調査方法 質問票による面接調査

調査内容・食塩の購入行動・食塩の使用行動・ヨード欠乏症の知識

調査結果 データ (略)

分析要点

排尿ヨード検査でヨード欠乏症でない正常・十分(150~249 $\mu\text{g}/\text{l}$)を得るには、世界保健機構 WHO は 280 μg のヨードを食物摂取するよう勧めている。しかし Chautara Sangachowkgadhi 村では、平均値で見ると、毎日の食塩消費量 6.35 g \times 食塩のヨード濃度 34.56 $\mu\text{g}/\text{l}$ = 219.58 μg は食塩によるヨード摂取量である。219.58 μg のヨードを食物摂取しても、チョウタラの生徒は平均で 94.33 $\mu\text{g}/\text{l}$ の排尿ヨードしかとれない。WHO の正常レベル(150~249 $\mu\text{g}/\text{l}$ に到達することは困難であることが分かった。

食塩の一人一日当たりの消費量は 6.35 g であることを考えると、政府によって決められた食塩のヨード濃度基準 ; 50ppm が堅持されれば、ヨード添加塩で 50ppm/1 \times 6.3 g = 315 μg のヨード摂取が可能。従って次の結論としたい。

結論 Conclusion

この研究ではヨード添加塩の普及率は高いが、調査対象の子供たちは依然としてヨード欠乏の危険に晒されている。国民の殆どの家庭はヨードを強化した食塩を使っているが、体に十分なヨードが摂取できない危険があるので、これを監視する大規模な研究が必要であろう。

私達は政府の担当部署がヨード添加塩の品質 ; 50ppm/1 \pm SD を維持管理されよう切望いたします

認可と同意

調査対象者全員の同意とネパール保険調査委員会の認可を受けています

利害関係

著述者はお互いに利害関係なしと公言しています。

基金 ネパールヨードを支える会 (日本)

2. 創業 20 周年 法人設立 12 周年を記念してこれまでの活動を総括し学会発表と出版を行った。ご関心のある方は御申し付けください。(有料)

●研究レポートを発表

掲載誌 ; 洞窟環境 NET 学会紀要 12 号

タイトル ; ①ネパール連邦民主共和国、ヨード欠乏症対策のための昆布ミネラルカプセルに関する研究
熱田親憲

; ②ネパール連邦民主共和国、農村に於けるヨード補給の成果と今後の課題 ~ヨード欠乏症
対策の NGO 活動として~ 熱田親憲

配布先 ; 当 NPO 会員、助成財団、関係 NPO 団体、

